

〔実施報告書〕

学校読書活動の取組【伊根町立伊根中学校】

1 実践テーマ

読書活動をとおして、豊かな心を育てる

～読書センター、学習センターとしての学校図書館の充実を図る～



2 学校の概況

京都府北部、丹後半島の北端に位置する伊根町は、舟屋、浦島太郎伝説、徐福伝説、民俗芸能、衣食住にかかわる有形・無形の文化財などが多く残され、国内外からの観光客が多く訪れる。その一方で、人口の減少や少子高齢化など、大きな課題にも直面している。



本校は生徒数26名、4学級のへき地小規模校である。「地域の特性を生かした教育活動を充実・発展させるとともに、知・徳・体の調和のとれた教育に努め、地域に開かれた学校づくりを推進し、めまぐるしい社会変化の中を前向きに生きる力を育成する。」という学校教育目標のもと、ふるさと学〈伊根学〉をはじめ、様々な教育活動に地域とともに取り組んでいる。町に一つしかない中学校で学ぶ生徒達は、地域全体で支えられ、大切にされている。恵まれた環境の中、学習や部活動、学校行事に熱心に取り組む、落ち着いた学校生活を送っている。

また、学校図書館機能充実のための実践も3年目になり、今年度卒業する生徒は入学時より学校読書活動充実のための取組を行ってきた。そのなかで読書に対する気持ちの変容や図書の取組に積極的に参加するなど行動の変化も見られるようになった。

3 実践内容

(1) 図書の管理簿の整理・データ化

第1図書室を読書センター、第2図書室を学習センターとして位置付けた。読書センターの蔵書（主に読みもの）の再登録、データ化は完了した。しかし、第2図書室の学習資料や専門書類は未だに再登録が完了していない。専門書の大規模な廃棄、新規購入による本の入れ替えが必要であるが、予算上難しい。そのため、本校では専門書類は府立図書館学校支援セットの利用を促進している。

さらに経年の課題解決のために今年度は運営のための資料（読書活動推進計画、図書廃棄基準、本の登録の手順、図書室利用ガイドブックなど）を作成した。

(2) 学校図書館の授業活用

ア 教科、総合的な学習の時間等の授業における補助 ～図書室の本の活用～

国語科では各学年1度ずつ図書室の本を使った授業が行われた。授業者と授業構想について打ち合わせをし、指導に見合う本を準備した。また、授業の最初に図書担当が本の扱い方（調べ方、著作権など）についてレクチャーを行った。

国語科の他に美術科、家庭科（教員資料）で、図書室の本、府立図書館学校支援セットの利用があった。3年生の総合的な学習の時間・平和学習では学習資料『伊根と戦争』を図書担当で作成した。さらに、秋の読書週間に合わせて給食メニューが作られ、給食日よりでも紹介された。

〔図書室の本を使った授業の様子〕

3年生国語

絵本の表現の効果を探る。スピーチメモを作成し、タブレットを使い自分の意見・考えを述べる。



1.2年生国語

課題に合わせて、選んだ本から気に入った文を抜粋し、ワークシートを完成させる。



給食だより 11月号より 「この世界の片隅に」「はたらく細胞」「ハリー Potter」「精霊の守り人」など、おはなしに登場するメニューが給食で再現され、おいしくいただきました。

他にもオリンピック開催地に合わせたメニュー紹介コーナーなど、イベントとメニューに合わせてランチルームの前に本が並べられます。



給食だより

令和3年11月
伊根中学校

読書週間に、本に出てくる料理を味わいました。

10月27日から11月9日までは読書週間でした。読書週間は終戦もない1947年、まだ戦争の傷跡が残っている中で、読書の力によって平和な文化国家を作ろうという決意のもとに始まりました。



初日は、いわむらかずおさんの14匹シリーズの『14匹のかぼちゃ』です。ねずみたちが、かぼちゃの種を畑に植えて、大切に育て、最後はかぼちゃを使っておいしい料理をつくります。かぼちゃコロッケ、かぼちゃまんじゅう、かぼちゃの煮付け、かぼちゃスープ、かぼちゃパイ。その中から、かぼちゃコロッケが給食に登場しました。ケイシー先生が「カボチャのコロッケがおいしかった」と言ってくれました。⇒ごはん、豚汁、かぼちゃコロッケ、ほうれん草のおかかあえ、牛乳



4日目は『この世界の片隅に』の世界を再現してみました。楠公飯をそのまま給食で作ると、ご飯の量が減るので、雰囲気味わえるようにレシピを少し変更して作っていただきました。戦時中で食糧が少なくなっている時に、少しでもご飯をたくさん食べる気分を味わったり、たんぼぼやすみれなどの食べられる草をおかずにしたリ、人々は工夫をこらしてご飯を作っていたんです。

家で「今日の給食で…」と話題になっていた家庭もあったようで、ご家庭でも戦時中の話をさせていただいたと聞きました。平和のありがたさを感じられたのではないかと思います。⇒楠公飯風、すいとん、西京焼き、昆布のきんぴら、里芋とサツマイモの素揚げ、牛乳



5日目は、はたらく細胞シリーズで細胞たちが食べる食事を参考にパンに野菜や鶏肉などはさみました。本の中では、赤血球たちが体のすみずみの細胞にまで食事を届けています。細胞たちが食べようとするとヒスタミンが放出されて、べちよべちよになるハブニングもありますが、食事を待ち達しようとしている細胞たちがとてもほほえましいです。⇒手作りパン、鶏肉のカリカリ揚げ、サツマイモサラダ、そえ野菜、カブのスープ、牛乳



イ 授業活用促進のための教職員研修

授業での図書室利用計画や支援セット貸出計画、昨年度の利用実績表を作成し、計画的に教員の図書室の利活用を進めた。昨年度は授業での本の活用や教員の図書室利用も増え、一般書も貸出されるようになったが、今年度は授業利用も貸出も少なかった。

(3) 生徒の読書活動に対する指導

ア ブックトーク、読み聞かせ会


(ア) 中学校1年生

10月から中学校1年生への絵本の読み聞かせを行った。月曜日を読み聞かせの日、火曜日を聞き取りクイズの日にわけて実施。おはなしのテーマや主題、おもしろさをつかみながら聞く時間とした。



読み聞かせの様子

○一問正解につき、1ポイント進呈いたします。
 ○スペシャルデーは進呈ポイントが倍になります。
 ○30ポイントでいいことがあります。
 ○有効期限は3月31日までです。



あなたのそばに
伊根図書館
0772-32-0049

Asadoku

ポイントカード

お名前()

伊根町立伊根中学校
図書室

クイズ正解数でたまるポイントカード

名前()

第4回
ぶす

Q1 「ぶす」の正体は?

答え 水あめ 1P

Q2 「ぶす」を調べたことをごまかすために二人は何をしましたか?

①次の単語をつかう。動詞は形を変えてもかまいません。
 るすばん、ぶす、おかげじく、だいでんもく、どく、すもう、ねる、しめ
 ②言葉をたす。
 ③説明の文にする。

答え 8 6P

「ぶすはねらしてはる間にねてはいないのよ。まもろをねらしてたら、
 次郎がねらに探つたおやうにね。ア、あめけじくにつかまり、やうせ
 「はいまうに、だいてんもくの上に、おかげじくをねらして、わっあしました。
 の子、ぶすのどくで、死ぬために、ぶすをねらしたら、ねらして
 したって、ぶすはあまのくに分けました。」

』といういわけ(うそ)をした。

聞き取りクイズシート

(1) 校区小学校との連携

小中連携事業の一環として、3年前からブックトークや読み聞かせを行っている。新型コロナウイルス感染防止の観点から中止になることもあったが、小学校の児童は訪問をいつも楽しみにしてくれている。

伊根小学校・・・月1回、1年生へ読み聞かせ(10分間)、公立図書館の絵本の貸出
 本庄小学校・・・11月、学習の取組に合わせ、本を利用した言葉の学習(各15分間)



伊根小学校1年生
絵本の読み聞かせ・絵本の配本



本庄小学校低学年
大型絵本を使って



本庄小学校高学年
言葉の学習「月の異名」
『もちもちの木』を使用

(4) 図書室と読書についてのアンケート(ICTの活用)

6月、1月にアンケートを行い図書室運営に役立ててきた。1月のアンケートはタブレット回答にしたところ、生徒の声がたくさん集まった。プラスの意見が多く、読書に対する気持ちの変容や図書取組に積極的に参加するなど行動の変化も見られるようになった。

1月アンケートより「生徒の声」 (タブレットを使用することで記述回答が増えた。)

〔本を読むことに対する気持ちの変化〕

- ↑前は本が嫌いだったけど、読んでるとだんだん好きになった。
- ↑徐々に様々なジャンルの話を読むようになり、面白さに気づけるようになってきたから。
- ↑中1のときラノベを読むようになって今でも読んでいます。好きだから。
- ↑読まなくて興味なかったけど、オススメしてもらって好きになった。
- ↑図書室の本を全部読んでやろうと思った。
- ↓本を読む機会が減った。
- ↓想像して読むのが苦手。



新着おすすめの本は
カウンターに

〔図書室に行かないのはなぜ?〕

- ・好きな本を読みきったから。
- ・教室でしゃべるのが好きだから。
- ・「借りる」のが嫌だから。
- ・図書室に行く意味がないから。
- ・家で買ってもらった本を読んでいるから。
- ・(読みたい本を)自分で買うから。
- ・長めの小説を読んでいるから。(すぐに読み終わらないので来室回数が減った)



休み時間、図書室で
勉強をすることも

〔図書に関することへの思い・意見・要望など〕

- ・取組が増えたので、本を読むことが増えた。
- ・他の人のお気に入りの本など、自分からは読まなさそうな本を紹介してほしい。
- ・漫画を増やしてほしい。
- ・季節に応じた飾り付けがしてあり、図書室を見ただけで季節が楽しめるのがいい。
- ・アンケートやお楽しみ企画など生徒が喜ぶような企画を用意していることはとてもいいことだ。
- ・青春(恋愛)系のおすすめ本ってありますか？
- ・図書日より紹介されていた本が面白かった。最近読み始めた作家さんの本が面白いので、次も借りようと思う。
- ・もっといろんなジャンルの本を追加したらいいと思う。
- ・図書室は興味のある本を気軽に読んだり、勉強する場として活用したりできるのでとても役に立っています。ただ、休み時間が短すぎて多くの時間をとって好きな本を探せないのが残念です。これからも多くのジャンルの本に挑戦し、知識の幅を広げていきたい。
- ・今年からパスで本を読むようになり、面白いなと感じてきました。暇なときは本を読んで楽しく暮らせるようになるほどハマったので自分でもうれしいです。本が好きになるとは中学1年の頃、絶対に思っていなかった。
- ・おすすめの本をもっとたくさん紹介してほしい。
- ・本が見つけやすい。行くことは少ないが、今のままでじゅうぶんだと思う。

4 成果と課題

(1) 成果

- ア 伊根中学校の図書室の在り方が一定生徒に定着し、図書室、読書活動への意欲も高まりつつあり、生徒の声を図書館運営に活かすことができた。
- イ 小規模校の強みを活かす図書館経営を行い、「読書センター」「学習センター」として生徒の幅広い利用が見られるようになった。

(2) 課題

生徒と教員の図書室への意識・行動が比例しない現状の改善を図る。教員の入れ替わりによって授業での利用状況が大きく変動することのないよう、学校全体で研修内容や図書利用計画を具現化し、言語活動、探究学習との関連が図られるよう、図書室への意識の変容を進めることが必要である。